

《 令和6年度 コンピテンシーの分析結果 》

次に示す分析結果は、IGS（Institution for a Global Society）株式会社による、生徒の資質・能力と教育活動の教育効果を可視化するアセスメント・ツール「Ai GROW」による、令和6年度における1年間のコンピテンシーの分析結果の一部です。学校全体の様子としては、学年を問わず同じような結果が示されていることから、「3年生」のデータを基に、今年度の分析結果を報告します。

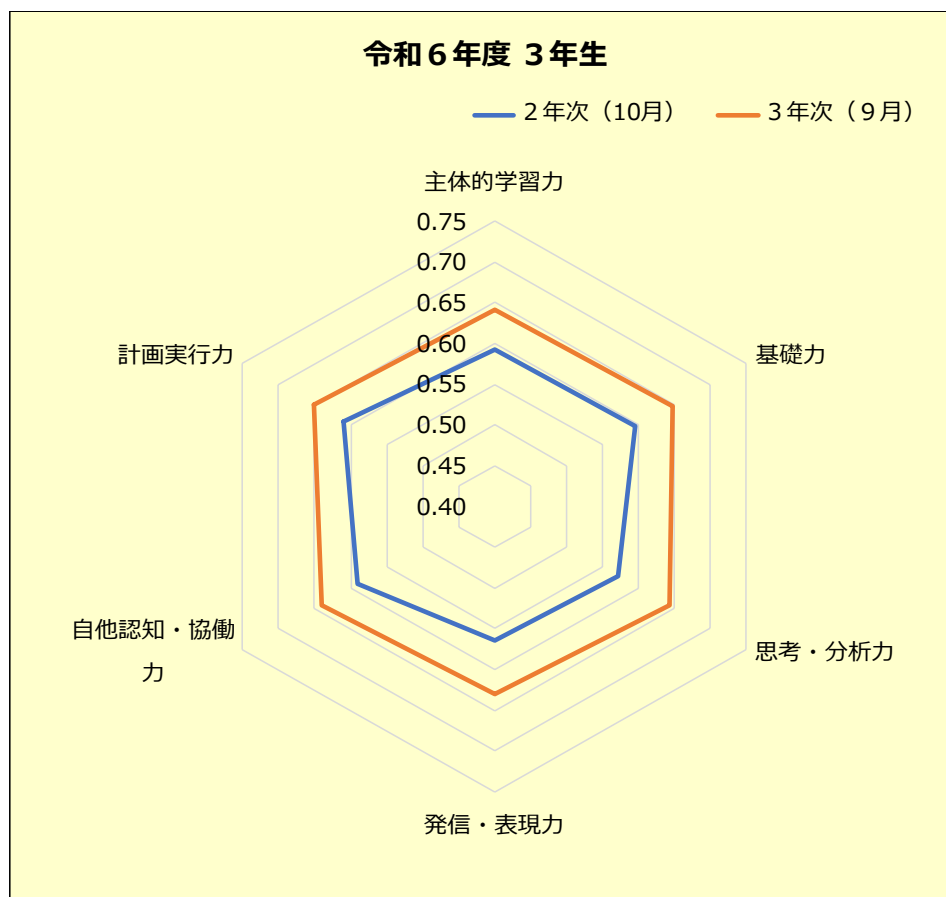
育てたい生徒像

世界に目を向け、新しい時代を生き抜くことのできる生徒

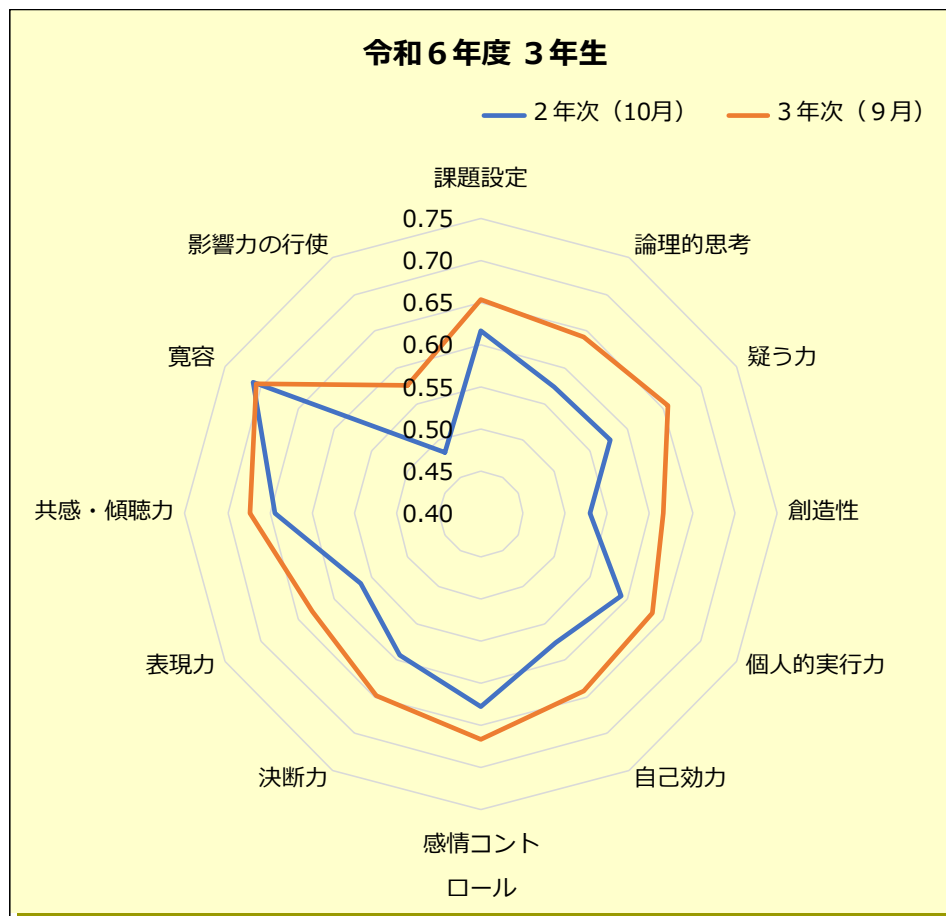
育てたい6つの力（資質・能力）

- | | |
|------------|------------------------------------|
| ① 主体的学習力 | 個性や能力に合う学び方を工夫・改善し、主体的に知識・技能を身に付ける |
| ② 基礎力 | 課題を見つけ、解決するためにより良い答えや解を導き出す力を身に付ける |
| ③ 思考・分析力 | 事実や考えを客観的に比較・吟味して、分析する力を身に付ける |
| ④ 発信・表現力 | 自分の気持ちや考えをまとめたり、分かりやすく伝える方法を身に付ける |
| ⑤ 自他認知・協働力 | 自分や他者を肯定的に認め、思いやりを持ち協働していく力を身に付ける |
| ⑥ 計画実行力 | 挑戦心を持ち、見通しを立て、失敗を恐れずにやり遂げる力を身に付ける |

【育てたい6つの力（資質・能力）に関する分析】



【12のコンピテンシー（資質・能力）に関する分析】



【分析結果】

この1年間で、育てたい6つの力及び12のコンピテンシーが大きく成長したことが分かります。12のコンピテンシーに着目すると、特に成長したコンピテンシーは「影響力の行使」（成長率121.5%）、「創造性」（成長率118.0%）、「疑う力」（成長率113.0%）、「表現力」（成長率112.4%）、「論理的思考」（成長率112.1%）です。また、「決断力」（成長率109.5%）、「課題設定」（成長率107.7%）についても大きな成長が確認でき、「函館学」をはじめとする教育活動の効果を定量的に確認することができました。さらに、「自己効力」（成長率111.8%）も大きく成長しており、課題に直面しても「自分ならできる」と自信をもって物事を進めることができる生徒が増えたと考えられます。「寛容」や「共感・傾聴力」はもともと高い傾向にあることから、人に優しく寄り添えたり、必要なときに他者のためにしっかりと意見を言ったりすることができるようになったと思われます。多くの生徒が持ち合わせていた、これらの強みを土台としながら、リアルな社会で求められる協働性に関わる「影響力の行使」を高めることができたことと分析しています。

一方、大きく成長はしているが、「表現力」「創造性」「影響力の行使」「個人的実行力」は、計測する他のコンピテンシーよりも、また、全国平均と比較しても伸びしろは十分にあることから、これら能力の定義を確認するとともに、現時点でこれらの能力が高い生徒の特長を分析し、「函館学」や「課題探究」などの活動・指導に改善を図っていくことが必要だと考えます。